

(29)

| | | | | |
|---------|--------------------------------|---------|---------|--------|
| 氏名(生月日) | オオ 大 | タキ 滝 | マサ 正 | キ 己 |
| 木 籍 | | | | |
| 学位の種類 | 医学博士 | | | |
| 学位授与の番号 | 乙第843号 | | | |
| 学位授与の日付 | 昭和62年10月16日 | | | |
| 学位授与の要件 | 学位規則第5条第2項該当(博士の学位論文提出者) | | | |
| 学位論文題目 | 大動脈弁形成術“Raspig 法”の基礎的ならびに臨床的検討 | | | |
| 論文審査委員 | (主査)教授 新田 澄郎 | | | |
| | (副査)教授 武石 詢, 教授 浜野 恭一 | | | |

論文内容の要旨

目的

当研究はリウマチ性病変をきたした大動脈弁病変に対し、弁の病変部を電動ヤスリを用いて削り取る“Raspig 法”なる手技についての基礎実験およびこれに基づく臨床的検討である。

方法

基礎的検討：研究方法は摘出大動脈弁に対し、電動ヤスリを用いて弁の肥厚部分を削り取る Raspig 法を施行したときの弁の形態学的変化を軟線 X 線撮影により、また弁表面の性状を病理組織学的に検討した。

臨床的検討：基礎実験に基づき 6 例の大動脈弁病変に対し Raspig 法を施行した。術中弁機能評価として血管内視鏡を使用し、また術後弁機能評価は心カテーター検査および心エコー法により行なった。

結果

基礎的検討：Raspig 法施行後は軟線 X 線像上弁の X 線透過性は増大し肥厚部分が縮小しているのが認められた。弁表面の組織学的検討では弁表面は平滑であり硝子様の結合織が削り取られていたのが認められた。しかし、石灰化部分に対しては組織の断裂が認められた。

臨床的検討：中等度のリウマチ性病変に対しては Raspig 法により良好な結果が得られた。血管内視鏡による術中弁機能評価では弁の coaptation が良好となり、術後心カテーター検査、心エコー法により弁機能の改善が認められた。しかし、石灰化を伴う高度のリウマチ性病変に対しては Raspig 法施行後も弁の可動性および coaptation は不良で十分な弁機能が得

られないため人工弁置換術が必要であった。

考察

大動脈弁形成術については文献的にはメス、ハサミを用いて Debridement 法として施行されているが、電動ヤスリを用いて大動脈弁の彎曲に沿い弁の遊離縁から中腹までを削り取る方法は文献的にも見当たらない。そこで本研究は Raspig 法の有用性について基礎的・臨床的に実証するものである。

リウマチ性病変をきたした摘出大動脈弁標本に対する Raspig 法の効果は石灰化を伴わない中等度の弁肥厚に対しては形態学的、組織学的に良好な結果が得られたが、石灰化部分に対しては Raspig 法により組織の断裂が認められたため、中等度以上の弁病変に対しては当手技では不十分と考えられる。

Raspig 法の臨床応用では石灰化を伴う高度のリウマチ性病変を呈した弁に対しては当手技後も弁の可動性、および coaptation は不良であったが、中等度以下の病変に対しては良好な弁機能が得られた。この際、術中弁機能評価として特に血管内視鏡が有用と考えられる。

結語

リウマチ性大動脈弁病変に対し肥厚部分を削り取る Raspig 法なる手技を考案し、基礎実験により当手技の有用性を実証し、これに基づき臨床応用を試みたところ、中等度までのリウマチ性大動脈弁に対しては充分良好な弁機能が得られた。

論文審査の要旨

リウマチ性病変をきたした大動脈弁に対する debridement 法の一つとして電動ヤスリによる rasping により弁変形を矯正する方式を独自に考案開発し、X線学および病理組織学的にその妥当性を検討すると共に臨床例6例にこれを適用し、自己弁の温存、機能回復を計り得ることを証明した。

本法は中等度以下リウマチ性大動脈弁病変に対する優れた治療法であり価値ある論文と認める。

主論文公表誌

大動脈弁形成術“Rasping法”の基礎的ならびに臨床的検討

東京女子医科大学雑誌 第57巻 第1号
14～27頁（昭和62年1月25日発行）

副論文公表誌

- 1) 傾斜ディスク弁（僧帽弁位・Björk-Shiley弁）の最大開放位による血行動態の相違
胸部外科 39（8）608～611（1986）

- 2) 新しい人工弁 Bicer Val 弁の臨床使用経験
胸部外科 37（11）876～879（1984）

- 3) Cardiac cachexia における経中心静脈高カプリー輸液（IVH）の効果とその適応
外科 47（1）86～88（1985）

- 4) 大動脈炎症候群に起因した弓部大動脈瘤の1手術治療例—とくに分枝再建における体外循環手技について—
胸部外科 39（4）306～310（1986）